



ITU-R SG5 WP5D (第36回bis) 等の結果について



総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課 新世代移動通信システム推進室
システム開発係長

まるばし ひろひと
丸橋 弘人

1. はじめに

国際電気通信連合無線通信部門 (ITU-R) SG5 (地上業務研究委員会) の傘下のWP5Dの第36回bis会合が2020年11月17日 (火) から19日 (木) に、またSG5第17回会合が同月23日 (月) に、それぞれ電子会議 (e-Meeting) で開催されたので、その結果について報告する。

(1) WP5Dの所掌及び会合の概要

WP5DはIMT (International Mobile Telecommunications: IMT-2000, IMT-Advanced, IMT-2020及びそれらの高度化・将来開発を包括する無線システム) の地上コンポーネント関連の検討のすべてを所掌しており、IMTに関する各種ITU-R勧告、報告類の策定、改訂作業及びWRC議題関連の検討を行っている。

前回第36回会合では、IMT-2020無線インタフェース詳細仕様に係る新勧告草案の検討や、WRC-23議題に関する検討が主に行われた。

今回の第36回bis会合では、翌週11月23日のSG5会合に向けて、IMT-2020無線インタフェース詳細仕様に係る新勧告案を最終化することを目的に (IMT-2020開発プロセスのステップ8の完了)、主にその作成作業に特化して行われた。

今会合には、41か国、39機関・団体から136名が参加し、日本からは10名が参加した。日本からの寄与文書1件を含む4件の入力文書が検討され、3件の文書が出力された。

(2) 主要議題及び主な結果

①一般事項関連 (General Aspects関連)

- ・IMT-2020無線インタフェース詳細仕様について、新勧

告案の作成プロセスにおける一連の手続きの完了や、今後の勧告改訂手続の将来計画などを通知するため、回章5/LCCE/59 (IMT-2020無線インタフェース技術候補の提案及び評価への参加の募集) の追補第8版及び外部団体へのリエゾン文書を、日本から入力した寄与文書等を基に完成させた。両文書の発出は、新勧告案が各国への郵便投票により採択・承認された後の、2021年2月ごろに行われることとなった。

②技術事項関連 (Technology Aspects関連)

- ・IMT-2020無線インタフェース詳細仕様に係る新勧告草案について、3GPP 5G-SRIT (Annex1)、3GPP 5G-RIT (Annex2) 及び5Gi (Annex3) に対する参照先 (ハイパーリンク) 及びそれに付随するサーティフィケーションC文書を、トランスポーズ機関 (電波産業会、ATIS、ETSI、など) から受領した。各Annexにおける参照先 (ハイパーリンク) が確認され、エディトリアルな修正の後、当該文書内容が承認された。これにより、2014年頃から開始されたIMT-2020無線インタフェース詳細仕様の開発に係る一連の新勧告案の作成作業が完了した。
- ・前回会合で外部評価団体に対して発出した、外部評価団体から最低要求条件を満たしているとの合意が得られなかったと評価された2つのIMT-2020無線インタフェース技術提案の再評価に関するリエゾンについて、CEG (カナダ)、TTA (韓国)、5GIF (欧州)、Bnrist (中国) から継続評価を行う旨の応答があった。この情報を、IMT-2020評価のウェブページに掲載すること

■表1. WP5Dの審議体制 (敬称略)

	担務内容	議長
WP5D		S. BLUST (AT&T)
WG GENERAL ASPECTS	IMT関連の全般的事項	K. J. WEE (韓国)
WG SPECTRUM ASPECTS AND WRC-23 PREPARATIONS	周波数関連	M. KRÄMER (ドイツ)
WG TECHNOLOGY ASPECTS	無線伝送技術関連	H. WANG (中国)
AH WORKPLAN	WP5D全体の作業計画等調整	H. OHLSEN (Ericsson)



となった。

③周波数及びWRC-23議題関連事項 (Spectrum Aspects and WRC-23 Preparation関連)

- ・今会合では行われなかった。

(3) SG5会合の概要

SG5は、陸上・航空・海上の各移動業務、固定業務、無線測位業務、アマチュア業務及びアマチュア衛星業務を所掌しており、議長は、英国のMartin Fenton氏である。SG5は表2に示すとおり、4つのWorking Party (WP) から構成されている。

今回の会合においては、44か国の主管庁及びその他の関連機関から257名が参加した。日本からは24名が出席した。

今会合には、各WPから勧告案や報告案等の文書をはじめ、計15件の文書が入力された。

審議の結果、勧告案については、WP5Dから提出されたIMT-2020無線インタフェース詳細仕様に係る新勧告案を含む計3件が、採択・承認を同時に実施するための郵便

による承認手続に付されることとなった。各加盟国における検討及び回答期間は2か月である。報告については、WP5Cから提出された1件の新報告案が承認された。

2. 今後の予定

次回以降、各会合は以下のとおり開催される。

- ・WP5D会合 (第37回会合) : 2021年2月22日 (月)~3月5日 (金) (電子会議)
- ・WP5A、5B、5C会合 : 2021年5月3日 (月)~14日 (金) (電子会議)

3. おわりに

今回のWP5D会合は、2014年ごろから開始されたIMT-2020無線インタフェースの開発について、新勧告案の作成が完了する節目の会合であった。

今回の会合でも、日本から積極的に議論に貢献できたことは、長時間・長期間にわたる議論に参加された日本代表団各位、会合前の寄書作成や審議に貢献していただいた関係各位のご尽力のたまものであり、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

■表2. SG5の構成 (敬称略)

組織名	所掌	議長
SG5	地上業務	Martin Fenton (英国)
WP5A	陸上移動業務 (IMTを除く) アマチュア業務、アマチュア衛星業務	Jose Costa (カナダ)
WP5B	無線測位業務、航空移動業務、海上移動業務	John Mettrop (英国)
WP5C	固定業務	Pietro Nava (Huawei)
WP5D	IMT	Stephen Blust (AT&T)